

研究ノート

三重県におけるシバカワツリアブ（双翅目，ツリアブ科）の記録

篠木善重

〒510-0305 三重県津市河芸町中別保2230-1

(2017年11月28日受付；2018年2月27日受理)

キーワード: シバカワツリアブ, 芝川又之助, 三重県, 名張市, 昆虫, 双翅目.

Yoshishige Shinogi*. 2018. Records of *Bombylius shibakawae* (Diptera, Bombyliidae) from Mie Prefecture, Japan. Mie Prefectural Museum Research Bulletin, 4: 31-33.

*Corresponding author: 2230-1 Nakabeppo, Kawage, Tsu, Mie 510-0305, Japan

はじめに

シバカワツリアブ *Bombylius shibakawae* Matsumura, 1916の三重県における記録については、橋本（1951）や大町ほか（1951）が目録中にリストアップしているが、確認地や年月日の記述がなく、また標本の所在も不明であるため信憑性がない。そのため、現在のところ県内に生息しているという確実な自然史情報が得られず、篠木（2011）は確証を持っていないとしている。また、県内には近似種のピロウドツリアブ *B. major* Linnaeus, 1758が生息しており、両種が混同されている可能性も否定できない。実際、栃木県立博物館の収蔵標本の再検討によってシバカワツリアブの存在が明らかになった例もある（紺野・中山，2014）。そこで筆者は標本の再調査を行ったところ、本種の標本を見いだした。また、標本が採集された地域の野外調査を行ったところ、生体の採集にも成功した。本報では本種の三重県における初記録を報告すると共に、同時に得られたピロウドツリアブも合わせて報告する。

シバカワツリアブとは

本種は、芝川又之助氏が大阪で採集した標本と、芝川氏と交流があった野平安芸雄氏が京都で採集した標本をもとに松村松年博士が新種として記載した昆虫で、

和名、学名共に採集した芝川氏に献名されている（松村，1916；千島土地，2010）。

その後、本種の記録は、国内各地で追加されるものの、本種の分布はタイプ地のほか、福島、栃木、三重、奈良、兵庫、岡山、鳥取、山口のあわせて本州の10府県に限られている（紺野・中山，2014）。本種は、全国的にみても希少な種であり、3府県が本種をレッドリストに選定している。京都府レッドデータブック2015では、本種は里山的環境の減少に伴って急速に姿を消した種の一つで、生息記録が長く途絶えているとし（大石，2015）、絶滅危惧種に選定している。同じく、山口県においても、近年の記録は無いとして絶滅危惧IA類に選定している（田中，2002）。また、奈良県においても、生息地、生息個体数ともに非常に限られるとして、希少種に選定している（奈良県，2016）。

標本の発見について

かねてより、県内各地で本種の生息調査を行っていた筆者は、三重県総合博物館所蔵の双翅目標本を調査する機会を得た。その中で、寄贈されたばかりである加納康嗣氏（名張市在住）のコレクションの中から、1個体の本種と思われる標本を発見した（図1）。その標本は、県内で加納氏自らによって採集されピロウド

ツリアブと同定されていたが、ピロウドツリアブより口吻が長く、翅の暗褐色紋の様子も明らかに異なっていることなどから、本種であると再同定した。

さらに、久米幸一氏コレクションの中からも1個体の本種標本を見いだした(図2)。久米氏の採集ラベルには採集日が「36. 5. 7」と表記されていたが、氏コレクションの各種標本データを検討したところ、「36」は昭和の年号と判断し、1961年5月7日と読み解いた。

これら博物館所蔵標本の調査によって、本県内にも生息していたことが確実となった。

シバカワツリアブ *Bombylius shibakawae* Matsumura,

1916

名張市安部田鹿高, 23, V, 1995, 1♀, 加納康嗣採集, 三重県総合博物館収蔵(図1)

伊賀市久米町久米山, 7, V, 1961, 1♀, 久米幸一採集, 三重県総合博物館収蔵(図2)



図1 シバカワツリアブ♀(加納康嗣氏採集)



図2 シバカワツリアブ♀(久米幸一氏採集)



図3 シバカワツリアブ♂(筆者採集)



図4 ピロウドツリアブ♀(筆者採集)

形態的特徴

体長は10mmほど。顔面の毛は少なく、雄は黒色毛、雌は黄色毛、触角下部の隆起は著しい。口吻は極めて長く、体長よりわずかに短い。胸側部及び腹部下面に白色毛を有せず、全体に黄褐色毛を密生する。翅は透明で、基部から前縁半ばは黒褐色、その後縁は波状とならず透明部との境が不明瞭、r1室の斑紋の色は極めて薄く、翅端部に近づくにつれ消失する、r-m横脈は暗化し、中室の中央部に位置する。

原発見地における生息の確認について

筆者は、2017年4月1日に大阪市立自然史博物館で開催された双翅目談話会総会において、三重県総合博物館に収蔵されている加納康嗣氏コレクションの中から本種が見いだされたことを発表した際、近畿地方における本種の生息状況に詳しい元大阪市立自然史博物館の宮武頼夫氏から、本種はツツジ科のモチツツジ *Rhododendron macrosepalum*に訪花するとご教示いた

だった。さらに本種を採集した加納氏から、採集地である名張市安部田鹿高地区のモチツツジの自生情報と共に、おおよその採集場所をご教示いただいた。

そこでモチツツジの開花時期を見計らって現地調査を数日間実施したところ、加納氏の採集から22年経過しているが、5月17日14時頃、同地（標高約260m）で、モチツツジに訪花する本種とピロウドツリアブの2種を相次いで採集することができた。しばらく周辺を探し回ったが、本種の追加個体は得られず、生息個体数の少なさを実感した。なお、伊賀市での現地調査は行っていない。

シバカワツリアブ *Bombylius shibakawae* Matsumura, 1916

名張市安部田鹿高, 17, V, 2017, 1♂, 篠木善重採集・保管。(図3)

ピロウドツリアブ *Bombylius major* Linnaeus, 1758

名張市安部田鹿高, 17, V, 2017, 1♀, 篠木善重採集・保管。(図4)

おわりに

本種は、外観が極めて近似しているピロウドツリアブに比べて、口吻が長いほか、翅の前縁にある暗褐色紋の後縁部が、透明な部分との境で不明瞭となり、特に翅のr1室の斑紋の色は極めて薄くなるなどの特徴を持つ。これらの特徴を飛翔中の個体から同定することは困難であるため、本種は、捕獲して確認する必要がある。

本種の県内における分布の解明には、発生時期とされる5月頃に（宮武，2005），モチツツジの開花状況を参考にしながら調査することが望ましいと考えとともに、過去に得られたツリアブ科昆虫の標本を再調査する必要がある。

今回の調査結果は、昆虫標本保存の意義をあらためて認識させられることとなった。

謝辞

名張市の加納康嗣氏および元大阪市立自然史博物館館長の宮武頼夫氏には本種の生息確認について貴重な助言を賜り、双翅目談話会の大石久志氏には、野外調査に同行いただいた。三重自然誌の会の清水善吉氏には、文献を提供していただいた。また、三重県総合博

物館の大島康宏学芸員には、本種の標本調査にご協力していただいたほか、本紀要への投稿を勧めて下さった。ここに記して感謝の意を表したい。

引用文献

千島土地. 2010. 芝川又之助と『紫水遺稿』～その生涯と昆虫採集～. 千島土地アーカイブ・ブログ<http://blog.goo.ne.jp/chishima-archive/c/cb6ed149f55ca578c7c468c28647604f> (参照日:2017年11月20日)

橋本太郎. 1951. 三重県産昆虫目録（昭和25年採集）. 三重生物, (2): 51-54.

紺野 剛・中山恒友. 2014. ツリアブ科ノートシバカワツリアブ栃木県での記録(関東地方初記録). はなあぶ, (37): 49-50.

松村松年. 1916. しばかはつりあぶ. 新日本千蟲圖解巻之二, 警醒社, 東京, pp.276-277, pl.18.

宮武頼夫. 2005. 近畿地方におけるシバカワツリアブのその後の記録. はなあぶ, (20): 65.

奈良県レッドデータブック改訂委員会. 2016. 大切にしたい奈良県の野生動植物 - 奈良県版レッドデータブック2016改訂版 - .奈良県, 奈良, 791pp.

大石久志. 2015. シバカワツリアブ. 京都府自然環境保全課（編）京都府レッドデータブック2015第1巻野生動物編, 京都府自然環境保全課, 京都, 503pp.

大町文衛・白井重雄・小田志郎. 1951. 動物の部Ⅷ昆虫類. 三重県産生物目録. 三重県生物調査委員会, 津, pp.88-148.

篠木善重. 2011. 三重県のツリアブ科(双翅目)に関する文献と記録. ひらくら, 55(3): 49-56.

田中 馨. 2002. ハエ目. 山口県野生生物保全対策検討委員会(編)レッドデータブックやまぐち山口県の絶滅のおそれのある野生生物. 山口県環境生活部自然保護課, 山口, 208pp.